

**製品名: CTNNB1 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM82528**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ELISA,FC
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	85.5kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CTNNB1
別名	CTNNB; MRD19; armadillo;Beta-catenin
遺伝子 ID	1499.0
SwissProt ID	P35222
免疫原	大腸菌で発現したヒト CTNNB1 (AA: 632-781) の精製された組み換え断片。

**背景**

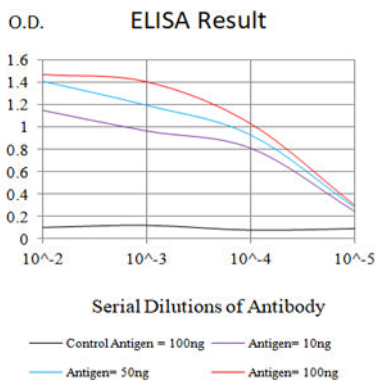
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、接着結合 (AJ) を構成するタンパク質複合体の一部です。AJ は細胞の成長と細胞間の接着を調節することで、上皮細胞層の形成と維持に不可欠です。また、このタンパク質はアクチン細胞骨格を固定し、上皮シート

が完成した時点で細胞分裂を停止させる接触阻害シグナルの伝達を担っていると考えられます。最終的に、このタンパク質は、大腸腺腫性ポリポーシスにおいて変異する APC 遺伝子産物に結合します。この遺伝子の変異は、大腸がん (CRC)、毛様上皮腫 (PTR)、髄芽腫 (MDB)、および卵巣がんの原因となります。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエントが生じます。

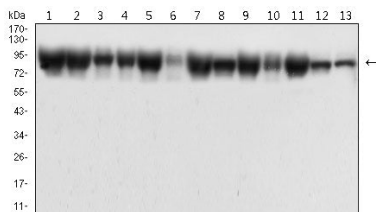
## 研究分野

Wnt シグナル伝達経路、Hippo シグナル伝達経路

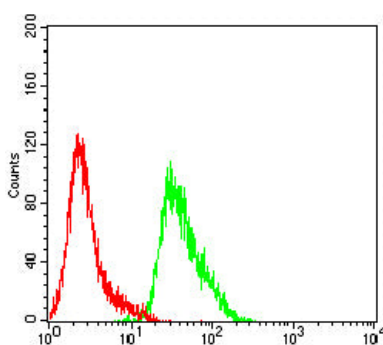
## 画像データ



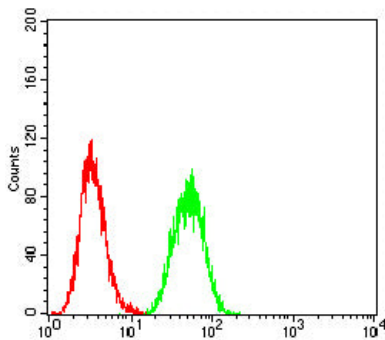
黒線: コントロール抗原 (100 ng) 紫線: 抗原 (10 ng) 青線: 抗原 (50 ng) 赤線: 抗原 (100 ng)



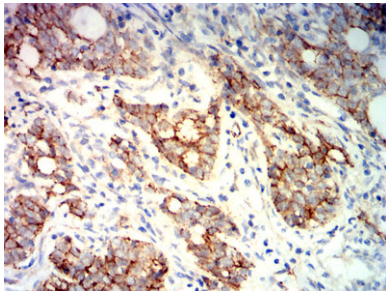
CTNNB1 マウス mAb を用いた Hela (1)、HepG2 (2)、NIH3T3 (3)、MCF-7 (4)、C6 (5)、COS-7 (6)、K562 (7)、Jurkat (8)、A549 (9)、SH-SY5Y (10)、BEL-7402 (11)、HEK293 (12)、および HEK293-6e (13) 細胞溶解物に対するウエスタンブロット解析。



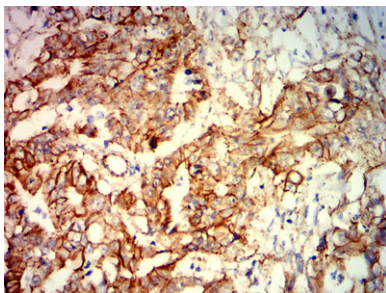
CTNNB1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した HepG2 細胞のフローサイトメトリー分析。



CTNNB1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した A549 細胞のフローサイトメトリー分析。



DAB 染色による CTNNB1 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト子宮頸癌組織の免疫組織化学分析。



DAB 染色による CTNNB1 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト直腸癌組織の免疫組織化学分析。